

# 2026 (R8) シラバス作成ガイドライン

愛知文教女子短期大学

シラバスは、学生の履修科目選択に不可欠な資料であり、授業内容・学習成果・成績評価・準備学習等を示す最大の情報源となります。教育の質保証及び質向上のため、シラバスの重要性和記載内容の一層の充実が求められています。

シラバスの重要性をご理解頂き、本ガイドラインにそって作成していただきますようお願いいたします。

- ① 講義科目名称、開講期間、配当年、単位数、科目必選、担当教員名称、授業クラス（学科、専攻）、科目ナンバリングコード、授業形態

予め入力されているため、変更しないでください。別紙「開講科目のお願い（依頼）」の内容と同じかどうか確認してください。誤りがある場合は、教務課で確認いたしますのでご連絡ください。

- ② 授業概要

授業の全体を把握できるよう、授業内容の概要やねらいなどについて、**である調**でご記入ください。また、当該科目を履修するための履修前提となる科目・課題等の条件がありましたら、各学科長と相談のうえ、あわせてご記入ください。

- ③ 学習成果【学習成果K、A～F】

当該授業科目の関連する学科・専攻の、別紙「カリキュラム・ツリー」を参照し、学習成果K、A～Fまでの記号を[ ]書きでご記入ください。

学生が当該科目の学習を終えた時に「どのような知識や理解に至り、何ができるようになるのか」について、カリキュラム・ツリーの学習成果と整合性がとれるよう具体的に**である調**でご記入ください。

- ④ DP との関連

シラバスは、実際の授業を通して「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：以下DP）」を実現していく指針を示す役割を果たし、DP と授業内容との関連がシラバス上でより明確となる必要があります。そのため、ご担当の科目が、DP の各項目を獲得するのにどれだけ対応しているのか、その割合（%）をご記入ください。DP の合計が100%になるようにしてください。

DP の項目は、本シラバス作成ガイドの5 ページ目にてご確認ください。

【例】食物栄養専攻

食 DP1 : 10 食 DP2 : 10 食 DP3 : 20 食 DP4 : 0 食 DP5 : 20 食 DP6 : 40

- ⑤ 授業計画

原則として授業 15 週間、通年の場合は 30 週間について指導項目をご記入ください。実験・実習・実技については、具体的な実習内容、実習時期等もご記入ください。試験は、15 週目または 30 週目を終えた後に行いますので、授業計画には入れないでください。複数回で同じテーマが連続する場合には、①②…とし、それぞれの回の具体的な内容をご記入ください。

学生にとって予習・復習の参考になるように、単位数に応じた授業回数（15 回、30 回）で、理解しやすい表現で具体的にご記入ください。

<b>【例】</b>		
授業計画	第14回	事例検討 ①児童虐待
	第15回	事例検討 ②障がい

※実習中の遠隔授業（オンデマンド（非同期）型）の授業計画について

社会状況等により遠隔授業実施のための学則改正等により整備を行ってきました。そのため、**対面授業と同等の学習成果が担保**できる遠隔授業（同期型ではなく、オンデマンド（非同期）型）については、15回の授業回数中3回を上限として、実施可能とします。上記⑤授業計画入力の際には、該当授業回に（オンデマンド）とご記入ください。

<b>【例】</b>		
授業計画	第1回	家庭を取り巻く環境
	第2回	子ども家庭支援の基本的考え方
	第3回	保育者の専門性を生かした支援・基本的態度(オンデマンド)

オンデマンドの上限回数（実習中の休講分）

	食栄2年	1部2年	3部2年	3部3年
前期	1	2	0	2
後期	0	2or3	2	2or3

## ⑥ 授業方法

授業の進め方について具体的に**である調**でご記入ください。学生が主体的に学ぶことで、学習意欲と学習の定着率を高めるアクティブラーニング（グループ学習、問題解決学習、体験学習、調査学習、ディスカッション、プレゼンテーション、授業のふりかえり等）を取り入れることが望まれます。アクティブラーニングを取り入れる場合は、この項目の末尾に「アクティブラーニング導入」とご記入ください。

**【例】**講義が主体だが、ディスカッションやロールプレイング等を取り入れ、さまざまな角度から問題の解決方法を探っていく。アクティブラーニング導入。

実務経験を持つ教員の方は必ず、職種の内容と、実務経験を通じた授業方法をご記入ください。個別に指定させて頂く科目もあります。

**【例】**～〇〇〇の実務経験があり、実践的な〇〇〇〇の方法で授業を行う。

## ⑦ 成績評価・フィードバック方法

評価項目ごとに〇〇（△%）、□□（▲%）とし、必ずその割合（%）を記入、合計が100%になるようにしてください。（例参照）「〇〇と□□を総合的に評価」などの表現はしないこととします。実際の成績評価もこの割合に準じてお願いします。

**【例】**試験（70%）、課題（20%）、授業への取組状況（10%）

出席率は、成績評価の対象にはなりません。「出席・参加（30%）」等、使用しないようにお願いします。授業参加への積極性は、成績評価に加味することができます。

※ 講義科目の場合、必ず試験を実施してください。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法を**である調**で記載してください。

- 【例】・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。
  - ・課題等の提出・フィードバックは teams を通じて行う。
  - ・オフィスアワーで、課題（試験やレポート等）に対して講評する。
  - ・最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

### ⑧ 教科書

使用する教科書をご記入ください。別紙「教科書調査票」と同一の内容にしてください。使用しない場合は、「特になし」とご記入ください。

### ⑨ 参考書

授業の理解を深めるため、予習・復習のために必要な、教科書以外の参考書がありましたら、ご紹介ください。

### ⑩ 準備学習（予習・復習）

授業に参加する際に準備するものや、予習(授業に問題意識をもって臨めるようなもの)・復習の内容と、それにかかる時間の目安についてご記入ください。

また、末尾に【履修案内 (P1)「準備学習（予習・復習）」を参照】の一文を追加してください。

#### 授業(教室)時間外学修

大学設置基準第 21 条では、1 単位の授業科目は 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準と定められています。したがって、授業(教室)時間外の必要な学修（予習・復習等）は、例えば、半期 1 単位の演習の場合、2 時間（実時間では 1 コマ 90 分）の授業について 1 時間（実時間では半コマ 45 分）を行うこととなります。②授業(教室)外学修に必要な時間、及び具体的な学修内容についてご記入願います。

【例】：「毎授業後に示すレポートを提出すること。また次の授業前には、〇〇時間(分)程度、前回の授業の内容を見直しておくこと。」

「毎授業前または夏期休暇等を利用し集中的に、〇〇時間(分)程度は、関連する分野のテレビ、インターネット、雑誌等にふれ、問題意識を持って授業に臨むこと。」

「授業後には、〇〇(分)程度の復習として課題についてレポートを作成すること。」

【履修案内 (P1)「準備学習（予習・復習）」を参照】

### ⑪ 備考

- ・参考になる Web ページの紹介などをご記入ください。
- ・地域での活動、地域住民との活動等が含まれている場合は、地域志向科目とご記入ください。

## シラバス以外のファイル入力・作成依頼

### 1 DP との関連

本シラバス作成ガイドライン「④ DP との関連」の割合を、以下の手順に沿って、ご入力ください。  
※ご担当されるすべての科目を入力してください。

<手順>

- 1) Teams 「2026 年度教学マネジメント」をクリック。
- 2) ファイルのタブをクリック。
- 3) 「DP との関連」のフォルダをクリック。
- 4) 「DP との関連 (入力表)」のファイルをクリックし、該当学科・専攻のシートを開く。
- 5) 担当科目の DP 欄に割合を入力する。  
(正しく入力された場合、合計欄が「100」になります。)

### 2 ルーブリック評価

昨年度作成いただいたルーブリック評価表に修正がある方や、新たに担当される科目がある方は、以下の手順に沿って、作成をお願いします。ファイルが完成しましたら、ファイル名の最初に「2026」を追加して下さい。【例】2026 (社会福祉) (〇〇)

<手順>

- 1) Teams 「2026 年度教学マネジメント」をクリック。
- 2) ファイルのタブをクリック。
- 3) 「ルーブリック評価」のフォルダをクリック。
- 4) 該当学科・専攻のフォルダをクリックし、自身のファイルを確認する。
- 5) ファイル名の最初に「2026」と追加する。

ご不明な点がございましたら、[kyoumu@abc.ai-bunkyo.ac.jp](mailto:kyoumu@abc.ai-bunkyo.ac.jp) までお問合せください。

DP とシラバスの関連

		DP	シラバス
生活文化学科 食物栄養専攻	建学の精神を基に	<b>1、栄養士としての「プロフェッショナリズム」、「栄養」と「食」の質と「安全」の知識・技能を有する。(知に明るい心)</b>	
		①栄養、調理、給食経営、衛生の知識・技能を有する	食DP1
		②栄養士の職業倫理を理解している	食DP2
		<b>2、多様な社会と対象者をより豊かに、健康にするため、学修を生かし、主体的に連携・協働できる(和やかな心、信じ信じ合える心)</b>	
		①多様な社会、対象者を理解できる	食DP3
		②栄養士の専門的知識、生活文化に関わる学修、豊かな教養を生かし「思考・判断・表現」ができる	食DP4
		③社会人基礎力を有し、主体的に課題を解決できる	食DP5
<b>3、常に最新の知見を学ぶ実践者(正しい心)</b>			
	①栄養士の生涯教育制度、地域、社会における生涯学習制度を理解し、利用できる	食DP6	
生活文化学科 生活文化専攻	建学の精神を基に	<b>1. 幅広い教養、生活と文化に関する情報を正しく理解し、情報を活用できる技術・能力、ビジネス実務の知識・技術を有する(知識・技能)(知に明るい心)</b>	
		①社会生活における情報活用に必要な ICT の専門的知識、情報リテラシーを理解している	生DP1
		②社会人として必要となる基礎力、ビジネススキルを身につけている	生DP2
		<b>2. 自身の考えを発信し、社会で連携・協働できるマインドを身につけている(和やかな心、信じ信じ合える心)</b>	
		①好印象を与え、多様なメディアを用いた豊かな表現を通じて、自身の考えを発信できる	生DP3
		②教養と、生活と文化に関わる学修を生かして「思考・判断・コミュニケーション」ができる	生DP4
		③ホスピタリティマインドを有し、連携・協働して活動できる	生DP5
<b>3. 多様な社会をより豊かにするため学び続ける人材。(正しい心)</b>			
	①社会の課題解決に向けて、専門的な知識・技術を生かして、主体的に貢献できる	生DP6	
	②専門的知識・技術の習得、社会人基礎力向上に向けて、自己研鑽できる	生DP7	
幼児教育学科	建学の精神を基に 豊かな教養を身に付け	<b>1. 信じ信じ合える心</b>	
		①様々な体験から達成感を高め、自分を肯定することができる	幼DP1
		②多様なバックグラウンドを持つ他者に対し、思いやることができる	幼DP2
		<b>2. 多様な社会をより豊かにする保育者(正しい心、和やかな心)</b>	
		①語彙力を高め、自分で考え自分の言葉で話すことができる	幼DP3
		②柔軟性・傾聴力・共感力・協調性などの社会人基礎力を有している	幼DP4
		③多様な社会を理解できる	幼DP5
		<b>3. 学び続ける生涯保育者(知に明るい心)</b>	
		①専門分野における知識・技能を有し活用できる	幼DP6
②失敗から気づき、一歩前に踏み出すことができる	幼DP7		
③保育者としてのキャリアビジョンを有する	幼DP8		